

カナダに於ける歯科教育の歴史

第3報

—1860～1869年間の歯科及び歯科教育の貢献者像—^{*1}

尾島 光栄^{*2} Kenji Kenneth SHIMIZU^{*3}

要旨：1860～1869年間のカナダに於ける歯科学や歯科教育および歯科臨床等に貢献した諸人物像に就いて、彼等のプロフィールや業績等を第1～2報に続き年代順に紹介する。

During the period from 1860 to 1869 in Canada, Authors tried to introduce the contributors and their profiles and efforts on the Dentistry, Dental Education and Dental Practice continued from No. 1 and 2.

Key words：Dentistry 歯科学, History of Dental Education 歯科教育歴史, Contributors of Dental Education 歯科教育貢献者

1. はじめに

先住民族のインディアンやエスキモーの間で代々伝承されていた伝統的な歯科医術に対して、1800年代に入るやアメリカからの移住、急速なイギリス、フランス、イタリア、ドイツ、スペイン等の西欧各国からの移民、入植、定住化は、人口の膨脹と共に増加する歯科疾患の対応が要求され、近代化された歯科医学と歯科医術の飛躍的な浸透と普及を進め、徐々に先住民族間の伝承医術と生活習慣や環境衛生等にも種々の好影響と変化をもたらした。

これらカナダの近代国家としての政治的な独立と、歯科医師会の設立と歯科医師の登録、免許、歯科専門医師の教育と養成の必要性から、歯科医学の専門教育機関の設立と発展、それには多数の歴史的に偉大な貢献者等が登場するが、これらの貢献に登場した人物達のプロフィールと諸業績等々に就いて、日本歯科医史学会々誌19巻3号(1993)¹⁾、20巻2号(1994)²⁾に引き続いて、Gullett³⁾の著書の翻訳を中心に年代順に紹介し、本間の著書⁴⁾より抜粋した同時代の日本近世歯学史・社会・文化史年表を同時に照合して紹介致します。

2. 主な登場人物—登場順—

^{*1} History of Dental Education in Canada, No. 3
—Contributors of the Dentistry and Dental Education during the period from 1860 to 1869—

^{*2} Koei OJIMA, The Nippon Dental University, School of Dentistry at Tokyo, Department of Physiology 日本歯科大学歯学部、生理学教室

^{*3} Kenji Kenneth SHIMIZU, The University of British Columbia, Faculty of Dentistry, Department of Clinical Dental Sciences, Division of Prosthodontics and Department of Oral Medical and Surgical Sciences ブリティッシュ・コロンビア大学歯学部臨床歯学部、補綴学部門、口腔医学・外科学部門

Barnabus W. Day (Fig. 1)

Certis S. Chittender

Henry T. Wood

Joseph S. Scott

F. G. Callender

John O'Donnell

A. D. LaLonde

D. A. Bogart

M. E. Snider

G. W. Boulter

Aldis Bernard

William George Beers (Fig. 2)

A. J. McAvenney

George L. Elliott

C. S. Barnum

H. M. Bowker

A. C. Stone

Jacob Neelands

William Allen Jones

3. Creation of a profession (1860~1869)

1860年代の10年間は British North America に於いて大きな区切りの一時期であるが、植民地は依然として分散、点在し彼等間の横の連絡は少なかった。

1861年のカナダの人口は250万人で、主な地域の人口数は以下の通りであった。

Nova Scotia325,000

New Brunswick250,000

Newfoundland150,000

Prince Edward Island.....80,000

やがて人口の増加に伴い人々は新しい感覚の成熟が必要になり、植民地の存続のために、数々のためらい、討論、協議の末に、1867年に入り British North America Act として、British Parliament と Dominion of Canada は Ontario, Quebec, New Brunswick, Nova Scotia を形成し、その後他の州も順次同盟国に加入し始めた。

政治問題も社会情勢の変化に順応して起り、1860年の“Elegant Canadians”という文献には“多数の人々が高い水準の社会生活に達する著しい成功を収めた”と記載しているが、しかし、大多数の人々の生活は困窮し、組織的な貧困、資金不足で不安定な将来のままで、貧苦の開拓者達は植物植えつけのために藪を切り開き、国境社会の設立に励んだ。

彼等、開拓者の中に Kingston の Barnabus W. Day (Fig. 1) がいた。Day は Kingston 近郷の一農夫として誕生し、1850年後半まで Kingston において歯科臨床のかたわら Queen's University の医学校に通い1862年に卒業後も歯科臨床医を続けた。

Day は1866年の秋に Ontario の著名なる歯科



Fig. 1 Barnabus W. Day, LDS, MD, father of dentistry in Ontario

医師達に1867年1月初旬に Toronto の会議で彼等に会いたい旨の手紙を配布した。1867年1月30日、Toronto の Queen's Hotel で9名が出席し、最初の Canadian dentist 達の会議が開催された。

Day 以外の8名は次の様に紹介されている。

Curtis Strong Chittender は Vermont の Burlington 生まれで、New York State で訓練を受け、1849年に Hamilton へやって来て、40年間歯科臨床に携わり、その間1850年には Michigan State Dental Association の会員になり、1860年にはその会長に選出された。

Henry T. Wood は New York State から来て、Picton の町で開業していた。

Joseph S. Scott はその当時は医学生で、Victoria Medical School を卒業後、数年間歯科臨床に従事し、歯科を習得している。

F. G. Callender は Cobourg で開業していたが、New York State から来たこと以外の彼の履歴はあまり知られていない。

John O'Donnell は最初の Secretary で、Peterborough で開業していた。

A. D. DaLonde は Brockvill 出身, D. A. Bogart は Hamilton 出身, M. E. Sinder は Toronto の出身と云われる.

Day が議長に選出され, 会議の目的は歯科医師達の完全な登録の方法と手段に就いて, 歯科医師会の組織作りのために, 次回は 7 月 Cobourg での開催を決定した.

Cobourg での会議には 13 名の歯科医師が参加して Report を作成し, 内規により 1867 年 7 月 2 日を Canadian dentist 達による最初の組織として, Ontario Dental Association⁵⁾ の設立と, 次回は翌年の 1 月に Toronto での開催を決定した.

1 月の会議は重要な会議のため, 市の中心部にある King Street の St. Lawrence Hall で開催され, 68 名の歯科医師, 25 名の医師, 1 名の裁判官, 1 名の薬剤師, そして Toronto 市長が署名した陳情書を Ontario の立法府へ提出する決議を採用した.

陳情の採用までには多くの時間と努力が必要であったが, Hasting County の立法府の会員の一人であった G. W. Boulter の大きな関心と協力で採用に漕ぎ着け, この事実は世界の各地で採用された中でも最初の, そして最高の Dental Act でもあった.

1868 年, Ontario の Royal College of Dental Surgeons が設立され, 同時にプロメンバーによる Board of Directors も発足し, この組織体は歯科医師の免許と規則化に十分な実力を授与された.

一方, 医師の登録はすでに 1865 年に Canada West Parliament によって制定され, 内科と外科の College が設立された.

Quebec 州の歯科医達はいち早く彼等の Ontario 協会に参画し, 1868 年 9 月 2 日の Montreal の会議には 15 名の歯科医が参加し, Quebec 州の Dental Association が発足, Aldis Bernard が President に, W. G. Beers (Fig. 2) が Secretary に選出され, 会議は継続的に開催されて, 主な業務は協同のための登録の採用であった.

1869 年, Nova Scotia と New Brunswick の



Fig. 2 William George Beers, DDS, editor, dean, and a founder of Canadian dentistry

2 州に於いても登録のための努力が成功を確実にした. 成功までの困難な局面について, 1867 年に Paris から Saint John に移住して来て, Halifax との間を行き来の後, 定着した A. J. McAvenney⁶⁾ が記述している.

W. G. Beers⁷⁾ に関しては 1860 年から 40 年間の Montreal での活躍について, 1900 年彼の死後 Montreal の日刊紙に“著名なる歯科医師, 信じるに値する愛国者, 有名なる運動家, 有能なる義勇軍の役人で最も尊敬された市民”として記載されている (Fig. 2).

Beers は彼の全生涯を過ごす Montreal で 1841 年に誕生し, Dickinson という名前の歯科医の許で年季奉公に従事した.

彼は Quebec Association の最初の Secretary で, 後に President に就任するが, 彼はあらゆる方法で業務を遂行し, 編集者として Quebec で最初の Dental record の Dean となり, 歯科に関する事情の公的な相談役として, 歯科内外の両面における公的な発言者としても有名であった.

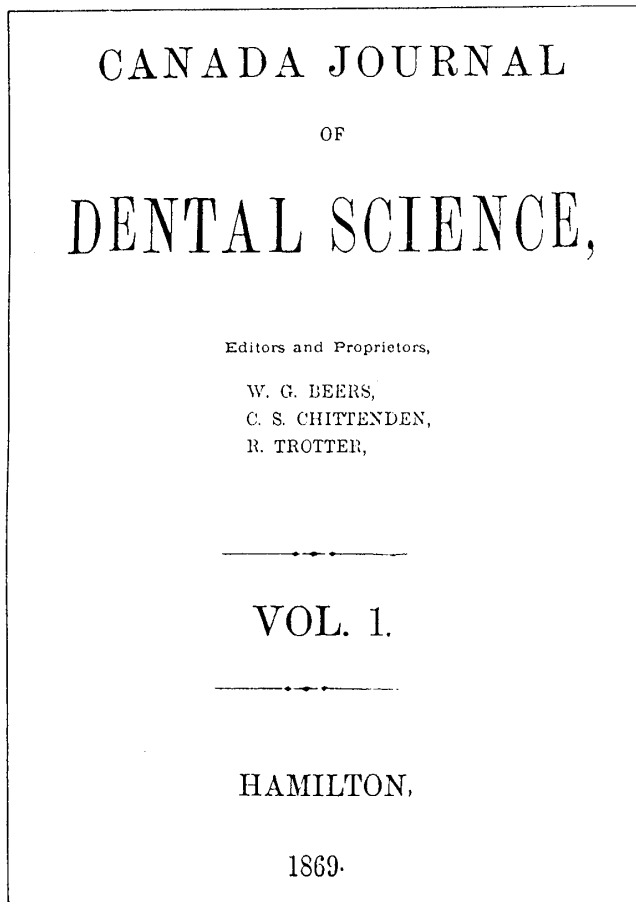


Fig. 3 Title page of Canada's first true dental journal

一方、彼はスポーツマンで Lacrosse の権威としても大変な評判で、インディアン達の本来の競技であるゲームを注意深く観察して、初めてその Lacrosse の規則を決める傍らで、彼自身の Lacrosse team を編成して一連のゲームに参加し好成績をあげた。

彼は愛国心から義勇軍に在籍し、Fenian 襲撃の時には Captain の役を勤めてから退役した程で、広く歯科に限らずスポーツ、愛国心についての著書は Canada, U. S. A. で出版され、彼の時代での偉人の一人となる。

彼の Science に関する興味は 1868 年に出版された Canada Journal of Dental Science (**Fig. 3**) にも向けられ、その出版は彼自身の財源で賄われ、この Journal は Canada での最初の歯科 Journal であった。

1868 年 6 月初旬、この Journal が Montreal で初出版されて以来、Hamilton の C. S. Chittender が Assistant editor を務め、出版地が Montreal へ移動した。

西暦和暦	国 名	歯学雑誌名
1839 年 (天保 19 年)	アメリカ	The American Journal of Dental Science
1861 年 (文久元年)	ドイツ	Deutsche Monatsschrift für Zahnheilkunde
1869 年 (明治 2 年)	カナダ	Canada Journal of Dental Science
1880 年 (明治 13 年)	イギリス	The British Dental Journal
1891 年 (明治 24 年)	日 本	齒科研究会録事

Fig. 4

この Journal は 1871 年 10 月まで月刊され、Vol. 3 の最後の出版は 1872 年 5 月で、最終の出版は 1879 年、President は Beers であるが、あらゆる可能な方法で経済的援助を試み、Dental Association の援助も儘ならず、彼 Beers の経済力は枯渇するに至った。

Fig. 4 はアメリカ、ドイツ、カナダ、イギリス、日本各国の歯学雑誌の初出版状況を参考に一覧したものである。

Ontario では立法化によって Dental School の設立の圧力が高まり、Board は 1868 年 10 月に調査委員会を設立し、Board の会員の一人 George L. Elliott が Dean となり、Canada College of Dentistry の設立の声により、Faculty が任命され、Course も記述されて、1868 年 12 月 1 日から 1869 年 3 月 1 日まで最高の Session で実行された。

授業料は \$ 50 で、7 名の学生が最初の課程に出席し 1 名の卒業生が新聞広告に出た。

Elliott は Canada での私立の Dental School の設立に努力するも、1870 年 Canada College of Dentistry は支持が困難となり断念した。

その後 Ontario Board は Cobourg の良評判の Clinician である F. G. Callender を Operative dentistry の Professor にし、Peterborough の J. O'Donnell を Mechanical dentistry の Professor に任命して、基礎学科目を Medical school で教授することで再出発した。

コースは 10 月 10 日に開始し、6 ヶ月期間で、授業料は \$ 100、学校維持のためにと \$ 300 を越えない額で承諾された。

西暦	和暦	歯 学 史	社会・文化史
1860	万延 1	ゼンメルワイス：消毒法の端緒を開く イーストレーキがはじめて来朝 燐酸セメントがこの頃より用いられはじめた 医学館において「医心方」を出版す	○ 1860：桜田門外の変
1861	文久 1	ブローカ：大脳皮質に言語中枢を発見 種痘所を西洋医学所と改む（教育・解剖・種痘の3科に分かちて講習す） 長崎の養生所落成（本格的洋式病院のはじめ） 伊東玄朴は右足切断術にクロロホルム麻酔を応用す（国内における洋薬の製造の必要性を提唱）	○ 1861：西 周による西洋哲学研究の端緒 アメリカ南北戦争 ○ 1862（文久2）：ツルゲーネフ（Turgenev, ロシア）、父と子出版 ユーゴー（Hugo, フランス）レ・ミゼラブルを著す ○ 1863（文久3）：リンカーン（A. Rincoln, アメリカ）、奴隷廃止令の布告
1864	元治 1 ◎	ハーリントン：足踏エンジンの発明 バーナム：ラバーダム防湿法の考案 シュルツェ：生理的食塩水を作る	
1865	慶応 1	クロード・ベルナル：実験医学序説を刊行 緒方惟準、幕命によりオランダに留学し医学を修む（1868年帰朝） ボードインは日本の脚気を記述す	○ 1865：福沢諭吉、慶応義塾を創立 メンデル（Mendel, オーストリア）、遺伝の法則の発見
1866	慶応 2	噴水式唾壺発売さる（S. S. ホワイト社）	
1867	慶応 3	リッグス：歯槽膿漏の研究 リスター：石炭酸による殺菌法の発表 パスツール：低温殺菌法の発見 コーンハイム：白血球の血管外移出をもって炎症発生を論ず	○ 1867：マルクス、資本論を出版 ノーベル（A. Nobel, スウェーデン）ダイナマイトの発明 ○ 1868（明治1）：明治維新
1869	明治 2	ハーバード大学の歯科医学校創立 エクハート：唾液腺分泌の交感神経支配について研究 ランゲルハンス：膵臓のランゲルハンス島細胞の発見 大阪医学校のボードインは本邦に静脈内注射を紹介した イーストレーキは日本を去り上海に行く 日本政府、医学の範をドイツにとる方針を定む	○ 1869：メンデレーフ（D. I. Mendeliev, ロシア）、元素の周期律の発見 ○ 1869：スエズ運河開通す

Fig. 5 1860～1869年の日本近世歯学史・社会・文化史年表
（本間邦則著：歯学史概説 107～108 頁より抜粋）

2名の学生：Belleville の Benson Gilbert と Sarnia の Jemes Woods が出席して、コースを終了するも、Board は約 \$ 125 の負債に直面したが、1870年7月には解消したが、この Dental school は1875年まで継続した。

1860年頃から歯科材料や歯科器械、器具は大きな変革、改良、工夫、製作が行われ、Dental chair は最初は簡単な straight-backed の台所 chair であったのが、Cabinet-maker の出現によって動く背板と椅子の付いた最初の Iron chair が使われ始めた。

1861年までは手圧での Hand mallet で Gold foil を充填していたが、5年後には Automatic

mallet が紹介されて歓迎された。

唾液の調整は大きな問題で、各種の Napkin, Duct compressor, Tongue holder, その他の装置が紹介されたが満足するものがなかったが、1864年に New York の一歯科医師 C. S. Barnum が Rubber dam を発見して、製品化し、歯科臨床に大きな貢献をした（Fig. 5 ◎印）。

所謂“Amalgam War”⁸⁾ がその材質、取扱い、耐性等々の点に於いて論争の焦点となり、60年にわたり Montreal の H. M. Bowker と George Beers の間で1870年の初めまで続いた。

治療に関しては、歯痛の除去のみに終始し、その対策に大きな発展の期待が後日に遺された。

Quebec 州の Ontario Dental Association (ODA) と Dental Association (Société Odontotechnique) は歯科の登録を推進するも、その関心は新しい Ontario の Royal College of Dental Surgeons の設立に向かうが、1868 年 ODA 内部に持ち上がった意見の相違に端を発し London の A. C. Stone の指揮のもとに第二の歯科組織として Ontario Association が形成されたが、1869 年 7 月、Belleville での結合会議で唯一の州組織となった。

その後、大きな州では local dental society の形成の方向に進み、1869 年 11 月には London の A. C. Stone が中心となって Chatham に於いては Western Dental Association が、同じ年に、C. S. Chittender をリーダーとする Hamilton District Dental Association が組織され、1871 年になって Montreal Dental Society が Quebec 州で最初の local dental society として組織された。

Ontario の Lindsay の Jacob Neelands は抜歯時の全身麻酔に Nitrous oxide を使用して注目されたが、彼は 1861 年に Port Hope で、弟の T. Neelands と共に 1 年間の年季奉公に従事してから Lindsay で 1928 年の 90 歳になる迄、臨床に携わりながら歯科見習い学生を指導し、彼らの幾人かは後に免許を取得した。

Conneticut の Horace Wells が 1844 年に Surgical anaesthesia のために Nitrous oxide 使用を考案して以来、1860 年代に至る J. Neelands の使用までの時間経過は明白であるが、この間にも Montreal では歯科医師により使用された形跡があるが、その使用者の名前を正確にする証明がない。

しかし、J. Neelands は彼自身がガスを作り、患者に応用し、他の歯科医師達にも彼の方法を教えつつ実地に於いて試み、歯痛からの開放に献身した。

一方、西海岸地域では Gold が不変の誘惑を巻き起こし、Lower Fraser と Thompson river 沿いの発見者達は、さらに Cariboo country の北方にまで試掘の足を延ばし、1862 年には高品位の Gold の発見により、各地からこの地区に数千人の人々が移住して来たが、それらの中には多数の歯科医師達の姿もあり、歯科医療とそれ以上の富を得るためにやって来た。

その中の主なる一人として England 出身の “Black dentist” William Allen Jones がいる。彼は West Indies と California を経て、小都市 Barkerville へやって来たのであるが、1886 年に設立された British Columbia Dental Act に登録された最初の歯科医師でもある。

文 献

- 1) 尾島光栄, K. K. SHIMIZU : カナダに於ける歯科教育の歴史 第 1 報—ブリティッシュ・コロンビア州を中心として—, 歯医史 19(3) : 103-109, 1993.
- 2) 尾島光栄, K. K. SHIMIZU : カナダに於ける歯科教育の歴史 第 2 報—歯科及び歯科教育の貢献者像—, 歯医史 20(2) : 134-140, 1994.
- 3) Gullett, D. W. : A History of Dentistry in Canada. The Canadian Dental Association by University of Toronto Press, 1971.
- 4) 本間邦則 : 歯学史概説. (株)医歯薬出版, 東京, 昭和 46 年 9 月, 88-89, 107-109.
- 5) Neelands, J. : The copy of this first constitution and bylaws. Dominion Dental Journal 39 : 171, 1867.
- 6) McAvenney, A. J. : Early History of Dentistry in New Brunswick. Dominion Dental Journal 17 : November, 1905.
- 7) Beers, W. G. : Poor Nova Scotia. Canadian Journal of Dental Science 3 : March, 1871.
- 8) Beers, W. G. : Amalgam for Filling Teeth. Canada Journal of Dental Science 3 : April, 1871.

著者への連絡先 : 尾島光栄

〒102 東京都千代田区富士見 1-9-20
日本歯科大学生理学教室
電話 03-3261-8311 (内)328